

本校のスローガン「全員卒業・全員合格」2年連続達成の軌跡 ～本校卒業試験と国家試験の相関と分析～

かとり なおみ

香取 尚美、檜山 由香里、生江 麻代、谷口 智也、望月 泰男、山藤 賢

(昭和医療技術専門学校)

【はじめに】 本校では、「全員卒業・全員合格」をスローガンとして掲げ、これまでもその試みや教育内容を何度か本学会にて発表してきた。昨年度の卒業生たちも、一昨年に引き続き、最高学年において、一人の留年生も出さずに、全員が国家試験に合格することが出来た。その経緯と、結果から見た国家試験の傾向に関して考察を加える。

【対象】 昨年度、本校卒業生66名を対象としている。本校では、卒業後の社会人像を見据え、そのための3年間を一つのストーリーとして教育を行っている。1年次からの教育内容に加え、3年次の取り組みに関して報告するとともに、国家試験直前の学内試験の結果、そして国家試験の結果を比較、検討する。

【結果と考察】 本校における国家試験の結果は最高得点が177点、最低得点が135点であった。この最低得点者を見る限りでも、例年の本校の卒業試験レベルから考えて、本年度の国家試験は相当やさしい問題であったと考えられる。全国平均も81.2%と近年では高い合格率となった。昨年に引き続き、全員卒業・全員合格（既卒者も含む総数）となった結果に関しては、今年の国試はやさしかったからだというのは極当然の解釈であり、今年度の国家試験への解釈は、皆様も同意見であろうと思う。しかし、ただやさしいという結果ではなく、学内試験の結果との比較から、ある傾向があると考えた。もちろん皆が出来る問題が多い一方、成績優秀者でも解けない問題も多かったのではと考えている。実際、全国的な合格率の上昇があつたにもかかわらず、感覚的な話になるが、一昨年と比較して、受けた学生は、国試終了直後のインタビューでは、昨年より、出来なかったという意見が多かった。そのギャップがなぜ生まれたのか。結果に関して、数字的な裏付けと考察を加えて発表させていただく。会場では、皆様からのご意見もぜひ伺いたいと思っている。